

「SUBARU BELL 412EPX」 警察庁から世界初受注を獲得

SUBARUとベル・ヘリコプター・テキストロン社(本社:米国テキサス州、ミッチ・スナイダー社長兼 CEO、以下ベル社)は、フランスのル・ブルジェ空港にて開催中のパリ国際航空ショー(主催:フランス航空宇宙工業会)において、日本の警察庁から SUBARU BELL 412EPX を 1 機受注したことを発表しました。これは 2019 年 3 月に SUBARU が落札したもので、SUBARU BELL 412EPX として世界初受注となります。2021 年 3 月に警察庁への納入後、岩手県警察に配備される予定です。SUBARUとベル社は今後も協力して SUBARU BELL 412EPX の販売に取り組んでいきます。

SUBARU航空宇宙カンパニープレジデントの戸塚正一郎は「SUBARUがベル社との協力のもと、SUBARU BELL 412EPX を世界初受注できたことを大変光栄に思います。この実現に向けたベル社の多大なる協力に感謝するとともに、品質の高い機体を警察庁に納入するよう全力で取り組みます。またこの受注は、世界中のお客様に SUBARU BELL 412EPX をお届けする販売の節目になると確信しています。」と語りました。

ベル社のスナイダー社長兼 CEO は、「日本の警察庁の信頼を頂いた事に感謝します。SUBARU BELL 412EPX が、配備先の岩手県警察にて大いに活躍し、人々の安全と治安に貢献するでしょう。今後長きにわたりSUBARUとの協力を高めていくとともに、更なる成功を期すことを楽しみにしています。」と述べました。

2018 年 7 月のファンボローエアショー(英国)にて、SUBARUとベル社は Bell 412 シリーズの最新型であり、陸上自衛隊新多用途ヘリコプターの開発プラットフォームである、SUBARU BELL 412EPX の販売協力について発表し、SUBARUは 2019 年 2 月に新多用途ヘリコプターの試作機を防衛省に納入しました。

SUBARU BELL 412EPX は、SUBARUが独自開発したレーザーピーニング技術によるメインローターギアボックスの強化をはじめ、ドライラン能力の向上、最大全備重量を 12,200lbs(約 5,500kg)まで増加、マストトルク出力向上 11%(飛行速度 60 ノット(約 111km/h)以下)等の性能改良によって、運航されるお客様にさらなる輸送能力と運航効率の向上を提供します。

Bell 412 シリーズは、過酷な運航条件の下でも、高い信頼性を誇る中型双発ヘリコプターです。その使い勝手に優れたキャabinは、あらゆる任務要求を満たすためのアレンジが可能です。Bell 412 は、双発ヘリコプターとして、日本を始めとしてオーストラリア、カナダ、インドネシア、米国、タイにて主に政府・公共用途として活躍しています。



SUBARU BELL 412EPX(警察庁仕様・イメージ)

ベル社の日本における歴史は 1952 年 11 月 24 日に Bell 47D-1 を 3 機、毎日新聞、読売新聞、中日新聞に納入したときに始まります。以来、日本のヘリコプター市場の大半にあたる 1,500 機以上を納入し、利用されています。

SUBARUとベル社は 1960 年代に HU-1B/204B ヘリコプターのライセンス生産を開始して以来の長きパートナー関係にあります。SUBARUはベル社の協力のもと、UH-1H/204B-2、UH-1J/205B、AH-1S など 400 機以上のヘリコプターを生産し、防衛省をはじめとするお客様に納入してきました。また、整備改修事業では、海上保安庁、警察庁、自治体の消防・防災ヘリコプター等の整備・改修サービスを提供しています。